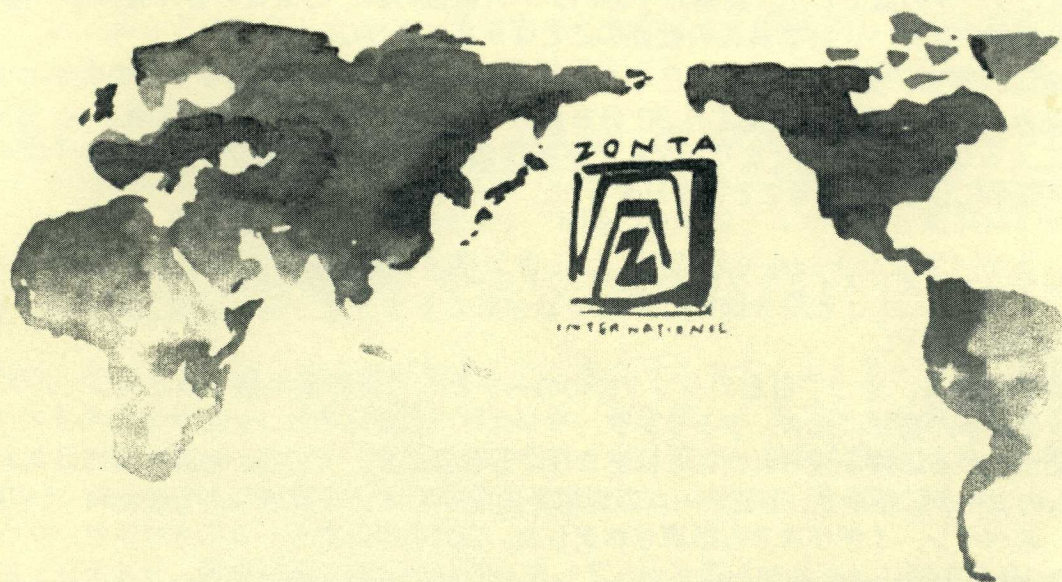


OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第45号(2018年2月)



巻頭言

2016～2018年会長最後の巻頭言

会長 笠置 伸子



寒中お見舞い申し上げます。

最後の巻頭言となりました。長かった様な、短かった様な歲月ですが、後4ヶ月ほど残っていますので、まだまだほっとはしてられません。過去3回の巻頭言で書かせていただきましたが

- ① 世界大会に出来るだけ多く参加してほしいと願いました。今回は横浜なので、何らかの形で全員参加致します。
- ② イベントの収益を上げたいと思いました。収益の中で、国際ゾンタの寄付、国際奉仕、国内奉仕を何とかまかなえるようになりました。
- ③ 会員を増強しなければならぬと切実に望みました。一番難関でどうしたらいいのか、大変ハードルの高い問題だと思い悩みましたが、1名が会長就任当時に入会し、2年目に入り9月に瓢箪から駒が出るように、あれよあれよと言っている間に3名の新入会員を迎えることが出来ました。

5月には最後の大事なエリアミーティングのホストクラブを務めます。最初はどうかと大変心配いたしましたが、会員の皆さまが積極的に役を引き受けてくださり目安が付いたときは、これでホストクラブが務められるという自信のようなものが湧いてきました。エリアミーティングのホストクラブができるという事は、クラブが一つに纏まり同じ方向を向いて目標を目指しています。会員一人一人が会長になったつもりで懸命な努力をして下さる姿勢が私には神々しく輝いて見えます。

毎回のようになっていますがゾンタの会員の皆様、有難うございます。とても充実した幸せな会長職をさせて頂きました。心よりの御礼を申し上げます。と同時に後残りの4ヶ月よろしくお願いたします。



今回の地区大会は、ゾンタ設立 100 周年を控え、また来年、2018 年 6 月には、日本で初めての横浜世界大会の直前でもある大切な大会でもありました。

開会式は恒例のフラッグ入場で始まりました。国際会長ソニア・ショーさんのスウェーデンの国旗、国際会員委員長のウイニー・テオさんの香港の旗、国際 CAEC 名誉委員エミー・ライさんの台湾の国旗、そして日本の日の丸とゾンタの旗でした。真鍋洋子ガバナーの歓迎の辞、ご来賓の香川県知事、高松市長の祝辞に続き、国際会長の挨拶、大会委員長の歓迎のことばがありました。

引き続きの地区の表彰、奨学金表彰、50 年在籍会員表彰、会員増強目標クラブの表彰がありました。議事は順調に進み、ここで時間が予定より 30 分も余ってしまいました、そこで休憩を 30 分長く取るか、次の基調講演に入るかという議論となり、なんと基調講演の井村雅代先生が、1 時間の予定の講演を 30 分長くして 1 時間半にしてくださいることになりました。

基調講演 シンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチ 井村雅代さん

“愛があるなら叱りなさい”

井村先生は大阪府出身。かつて日本のシンクロのコーチとして世界選手権、ロサンゼルス、バルセロナのオリンピック選手の養成に働き、アトランタ、シドニー、アテネオリンピックではヘッドコーチとして数々のメダルにつながる功績を残されたことはあまりにも有名です。その後、2004 年には北京オリンピックの中国チームのコーチに招かれ、中国チームの成績を中国初のメダル獲得にまでなされ、その間アメリカ、カナダ、韓国、スペイン、イギリスでも指導されました。2014 年日本チームのオリンピックヘッドコーチとして復帰され 10 年の間にメダルから遠ざかっていた日本で再び指導、リオデジャネイロオリンピックデュエット 3 位、チーム 3 位になされました。驚いたことに日本では中国に行く時も、帰ってきた時も周りからひどいバッシングを受けられたそうです。

日本に帰られてからの鬼コーチはかつてのチームと異なる、もえない若者をいかに励まし、達成感をもたせて技術の向上につなげるか工夫されました。

『ロシアに勝ちたい』という希望を持っているにもかかわらず、なぜ 10 年後の選手たちはこんなに燃えないか、それは負けて、とことん悔しい思いをしていないから、周囲の大人が『頑張ったのだからいいじゃない』と慰め、負けた原因を掘り下げ、勉強する機会をなくしてしまったからである。悪いところがあればその場で叱り、なぜ叱られるかがわかるように説明し、とことん練習して力をつけさせる。毎日 1 ミリ高く飛べるように目標を持てば、それを達成することはたやすいし、達成感を持てる。そして 10 日で 1 センチ高くなる。選手たちはそうして毎日朝 7 時半から夕食後深夜までの練習についてこられたそうです。技術的な指導だけでなく日本選手の体格的なハンディを克服するため、振り付けから工夫をし、ユニフォームのデザイン、生地、色まで改善し、日本独特のものを作られました。さらに選曲についても良い印象を与えるよう特別に作曲を依頼されたそうです。

急遽、1 時間半と延長になったにもかかわらず、時間を忘れて引き込まれる素晴らしい講演でした。さらにこの講演は、高松ゾンタの皆様が念入りに大会準備され、ゆき届いた運営に時間の余裕ができたおかげです。このおまけの 30 分の講演を有難うございました。



井村雅代さんの基調講演



国際会長とともに

第二日

西村 博子



ガバナーによる大会委員任命の発表の後、議事がすすめられました。登録委員会の報告で、大会前登録は地区役員ゲストを入れて303名、2日目は298名の出席。大会会議規則案が採択された後、大会プログラム、前回地区大会議事録、ガバナー報告、副ガバナー報告、地区会計報告、義援金報告がそれぞれ承認されました。その後以下の審議事項と緊急動議が審議され採択されました。

- ① 日本におけるワンストップ支援センターの現状把握とその必要性を啓発していく。また子どもと体罰についての勉強を続けていく。
- ② 26地区全クラブを対象として3月8日のローズデー、11月の女性と女兒への暴力撲滅週間に参画する。3月をローズデー月間、11月をZonta Says No月間とする。
- ③ 創立後20年未満のクラブ創立周年記念式典の案内は、原則として所属するクラブのエリア内のみに行う。但し他のエリアにSOMクラブ、姉妹クラブがある場合はこの限りではない。またこの場合の招待役員なども、ガバナー、副ガバナー、所属エリアのエリアディレクターとする。5年ごとの周年記念式典は行わない。
- ④ 三重新クラブはエリア2所属とする。

引き続き、国際会長 Sonja 様による奉仕とアドボカシーについて、プレゼンテーションが行われました。パワーポイントの和訳の資料も配布されました。その後、CAFV (100周年記念基本財産キャンペーン) のビデオを拝聴し、Ami Lai 様よりお話がありました。

【第2回ビジネスセッション】

各エリアディレクターの報告、各委員長報告がなされました。その後は次期役員の選挙です。指名委員会石川委員長からは、次期役員の候補者を推薦するに当たりその活動の経過報告がありました。私も今回は、石川朝子委員長の元、小苺米指名委員と共にこの指名委員会で、いろいろな配慮を求められながら、ドキドキワクワクしながら役割と活動を推し進めてまいりました。次期役員に最適な候補者の方がたとの出会いをいただき、ほっとしたことが思い出されます。2018-2020次期役員候補者のスピーチでは、大阪Ⅱの宮本会員が指名委員に立候補、その抱負を述べられました。ご自身のコーラスの活動から、色々なパートが組み合わさって良いハーモニーが生まれるように、次期指名委員の一人としてその一役を担えればと抱負を述べて下さったことを感謝いたします。その後、選挙が実施されました。

夕刻からは会員委員会の勉強会と会食が、Winnie Teoh 国際会員委員長と各クラブの会員委員長で行われました。地区の会員数は増えつつある現状ですが、さらに良い討議がなされたことでしょうか。大阪Ⅱ笠置会長がこの会議に出席されている間、私は宮本会員とホテル内のレストランで朴葉で焼かれる牛肉・お野菜とワインに酔いしれていました。ゾンタストアでは私たちクラブが長年支援している障がいをもったベトナムの女性の手作りの刺繍作品を販売いたしました。お買い求めくださったゾンシャンの皆さま、ありがとうございました！

第三日

笠置 伸子



10月21日土曜日はいよいよ最終日です。

ホテルクレメント高松4階チャペルで8時20分からのメモリアルサービスで始まり、9時30分から第3回ビジネスセッションが行われました。クレデンシャル委員長の最終報告が終わり、選挙結果報告になりました。

次期役員 (2018～2020) ガバナー 北九州ゾンタクラブ 木下彰子会員
副ガバナー 大津ゾンタクラブ 岡澤則子会員
地区会計 岐阜ゾンタクラブ 安田芳子会員
エリア1デレクター 函館ゾンタクラブ 水野幸子会員
エリア2デレクター 東京Ⅱゾンタクラブ 矢崎和貴子会員
エリア3デレクター 大阪Ⅰゾンタクラブ 上田恵子会員
エリア4デレクター 鳴門ゾンタクラブ 和田津美智代会員

次期指名委員 (2018～2020) 指名委員長 仙台ゾンタクラブ 大須賀はつ会員
指名委員 神戸フェニックス 三田恵美子会員
指名委員 奈良万葉ゾンタクラブ 神田加津代会員

以上のように決まりました。

その後、横浜世界大会ワークショップを山本蒔子、三宅定子委員長が行いました。

地区大会は時間厳守、どの項目もスムーズに進行され、無事終了致しました。

その後、昼からの「さよならランチパーティ」では、厳粛な雰囲気「ビジネスセッション」とは打って変わって、和気あいあい、一年に一度の懇親会を全員が楽しんでいました。アトラクションで真鍋洋子ガバナーの目の覚めるようなダンスのデモンストレーションを拝見し、その後、ソニア会長は花嫁衣装で各テーブルを回られて、会場はほほえみと拍手に満たされて、地区大会は名残惜しい中、終了致しました。

100周年記念寄付は地区大会で3500万円ほど集まり、ソニア会長への寄付は350万円ほど集まりました。

最後になりましたが、海外からのご来賓は、スウェーデンの国際会長 Sonja 様、香港の国際会員委員長 Winnie Teoh, 様、台湾の名誉会員 Ami Lai 様の参加を頂きました。

高松ゾンタ、高松Ⅱゾンタクラブ、徳島ゾンタクラブの皆様お疲れ様でした。



薬物依存からの回復 (2017年9月14日)

尼木 純子

261 回大阪Ⅱ ゾンタクラブの例会では、一般社団法人ダルクヴィレッジ代表梅田靖規様を講師としてお招きして、卓話「薬物依存からの回復」についてお話いただきました。梅田氏自身も実際薬物依存からなかなか解放されず苦しめられた経緯があり、いろいろと辛かった過去の体験をお話下さり、東京ダルクにて梅田氏は薬物依存から解放され、この経験を薬物依存で苦しんでいる方々のために、今度は自分が助けてあげようと、神戸にダルクヴィレッジを立ち上げられました。

ダルク (DARC) とは、ドラッグ (DRUG = 薬物) の D、アディクション (ADDICTION = 嗜好、病的依存) の A、リハビリテーション (REHABILITATION = 回復) の R、センター (CENTER = 施設、建物) の C を組み合わせた造語で、覚せい剤、有機溶剤 (シンナー等)、市販薬、その他の薬物から解放されるためのプログラムを持つ民間の薬物依存症リハビリ施設です。

薬物をやめたいと思っても、自分一人では相談するところも無く止めることは困難ですが、ダルクヴィレッジでは、薬物依存の経験者の体験談を聞いたり、自分の悩みを相談したり、この施設でミーティングを定期的に行い、時には一緒に生活して薬物依存から本当に解放されてゆくというなくてはならない「心のリハビリテーション施設」なんだなあと、思いました。代表梅田様、施設のスタッフ様、どうぞ辛い心をかかえた方々を、親身になって助けてあげてください。

エリアミーティングの準備 (2017年10月12日)

～澤井エリア3エリアディレクターをお迎えして～

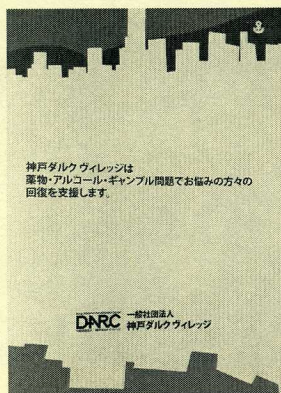


辻 康子

2018年5月27日(日) エリア3 エリアミーティングがリーガロイヤルホテル大阪で開催されます。大阪Ⅱ ゾンタクラブはそのホストクラブとして、さまざまな準備、当日の運営、議事録の発行に至るまでのすべてを担当しなければなりません。澤井エリアディレクターに10月例会にお越しいただき、どういう作業を、いつ、どのような手順で進めるのか、全体的なレクチャーをしていただきました。

エリアミーティングは勉強会(決定機関ではない)で交流を深めるところです。全体テーマは地区大会の理事会で決まり、全体テーマが決まってから基調講演の演題と講師を考えることとなります。会長会議のテーマは「各種報告用紙と支払い手続きについて」。主会場以外に会長会議の部屋、食事の部屋、控えの間が必要ですが、すでに「山楽」と「楓の間」を押さえてありますので、すべてまかなえることがわかりました。参加人数は150～180人の想定です。本部(エリア)から20万円の補助があり、参加費は1万円。実行委員会構成員は実行委員長はじめ会計、書記、司会。具体的な仕事は、プログラム、案内状の作成、発送、参加者の受付窓口、会計、会場設営、講師探し、司会進行、タイムキーパー、ゾンタストア、テープ起こし、議事録作成、名札印刷、写真撮影などたくさんあり、当然のことながらクラブ全員で分担しなければなりません。これからは例会後に実行委員会を開くこととなります。

澤井エリアディレクターはとても具体的にわかりやすく、親切にご指導くださいました。世界組織のクラブとして大きな行事を担うのですから、抜かりなく立派に役目を果たせるよう、責任の重さを感じながらクラブが一丸となって準備にかからねばと身の引き締まる思いがしました。



DARCパンフレット



10月12日例会

養護施設「かざぐるま」訪問

牛田 三千子



2017年12月1日、大阪Ⅱゾンタクラブが長年支援をしていました奈良県生駒市の養護施設「かざぐるま」を訪問しました。

参加者は、笠置、辻、中田、中塚、西村、幡山、芳川、牛田、新元先生と案内役の内藤会員の10人です。この日の交流のために新元先生のご指導のもと、銭太鼓3曲の練習を重ねてきました。

若い利用者さんが多いということで、曲目も「さんぽ」「人間っていいな」を教えていただき、もう1曲は私たちのおはこ(?)である「河内おとこ節」。そしてハンドベルはクリスマスも近いことから「アメージンググレース」と「荒野のはてに」の2曲を加え5曲を聴いていただきました。

「かざぐるま」は生駒駅から送迎バスで10分たらず。稲刈り後の田んぼや畑が点在し、紅葉した山々も近い閑静な場所に建てられています。お向かいには小学校があり時折元気な歓声が聞こえます。

「かざぐるま」に通所、入所の皆さんは高校卒業後の比較的若い方が多いように見受けられました。車椅子の身体障がいの方は少なく、私達が銭太鼓を打っていますとその音楽に合わせて楽しそうに身体を動かしたり踊ったりしてくれました。私達の演奏が終了後は、お返しにということで、施設の音楽クラブの利用者さんとスタッフの方々の竹太鼓の演奏が始まります。

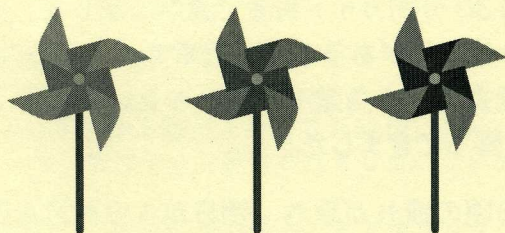
太い竹から作った素朴な楽器を細い竹の棒で叩くのですが、難しいリズムを一生懸命、上手に演奏してくださいました。指導のスタッフさんのご苦勞がしのばれました。私達を指導してくださる新元先生のご苦勞も負けず劣らずだと感じ、ひととき感謝の思いを強くしました。

思いがけず銭太鼓と竹太鼓の二つの太鼓同士で交流し楽しいひとときを過ごすことができました。

終演後は利用者さんとスタッフの方々の明るい笑顔に送られ、私達も暖かい気持ちで帰路につきました。お土産にいただいた可愛い手作りクッキーの美味しかったこと！「かざぐるま」の皆さん、これからもどうぞ頑張ってください。わたしたちも応援しています。



銭太鼓



大阪Ⅱゾンタクラブの寄付先紹介

かざぐるま

内藤 恵子



昭和48年生駒市障がい児・者を守る連合会を結成し、それが母体となり平成13年、今の法人が設立されました。現在、かざぐるま(法人本部)、かざぐるまえーる(生活介護)、デイケアセンター、福祉ホームおかりなの家、デイサービスふるふる(知的障害児の放課後支援)、きこり(生活介護)、一歩の家ポピークローバー(グループホーム)、喫茶ゆうほ～コラボショップお～くる(就労継続支援)、生活支援センターかざぐるま(相談支援)の事業を展開しています。施設利用者は100名、職員は60名です。この施設を立ち上げたかたは、私の患者さんで40年弱の付き合いです、自分たちの子供のために施設を立ち上げ、ここまで立派に運営されているのに頭が下がります。

秋のゾンタ加賀旅行

芳川 た江子



平成 29 年 10 月 8 日（日）から一泊で、私達 9 名（牛田・笠置・笹岡・辻・内藤・中川・幡山・堀・芳川）は、秋の加賀旅行に出発しました。晴天のもと、JR 大阪駅からサンダーバードに乗り加賀温泉駅で降りました。チャーターしていたバスで久谷満月へ行き、伝統工芸の九谷焼きの説明を聞いて見学しました。昼食は久谷満月のレストランで、のどぐろ釜飯御膳をいただきました。



久谷満月での昼食

その後バスで、星野リゾート界加賀に到着しました。15 時前に着いたので、しばらく星野リゾートの近辺を散策してからチェックインしました。

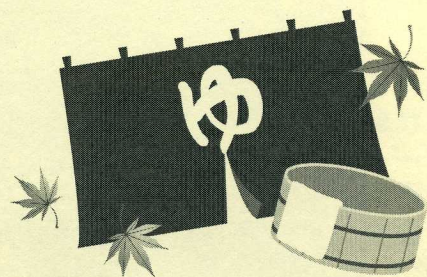
4 部屋で、露天風呂付きの部屋もあり、ゆったりとくつろげました。夕食前に大浴場に行きましたが、とてもすいていてゆっくりと入れました。夕食は 9 名の個室を用意して下さり、そこで旬のものを美味しく料理された和食の会席料理をいただきました。量もちょうどよく、みんな完食していたようです。その後ロビーで、ぜんざいやコーヒーなどがサービスされ、又、紙芝居や勇壮華麗な加賀獅子舞を見て、日頃の仕事の疲れなどがふっとんだようです。

翌日 10 月 9 日（月）は、9 時にチャーターされたバス（バスガイド付き）で星野リゾートを出発して近江市場に行きました。バスガイドさんが要所を教えて下さり、要領よく回ることができました。その後、東茶屋街を散策しました。石畳の道に紅殻格子のお茶屋が軒を連ね、京都の祇園と肩を並べる花街の風情が感じられました。その後、妙立寺（忍者寺）へ行き、約 30 分間ガイド付きで見学しました。見上げるような屋根、望楼、多くの隠し階段、切腹の間など、種々の仕掛けがあるので「忍者寺」とも呼ばれています。ガイド付きでないと迷子になってしまいそうでした。昼食は、六角堂でステーキをいただき、バスで加賀温泉駅へ送ってもらい、サンダーバードに乗って大阪に帰ってきました。

晴天にも恵まれ、ゆったりとした旅行だったので、日頃の疲れが取れ、明日からの英気を養うことができたい旅行になりました。



星野リゾート界加賀の前で



2017年最後の例会と忘年会

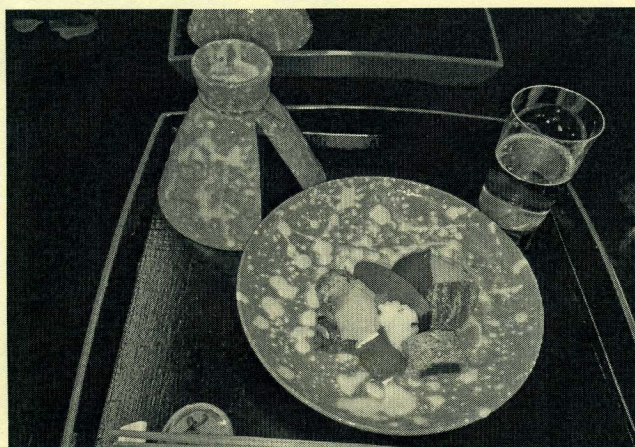
坂本 千代



平成 29 年師走の 14 日、大阪Ⅱゾンタクラブの例会と忘年会が大阪市北浜の歴史ある料亭「花外楼本店」で行われました。大川沿いのお座敷のテーブル・椅子席についたあと、まず例会でエリアミーティング実行委員会の報告や当クラブによる施設訪問の報告などがあり、そのあといよいよ忘年会がはじまりました。ビールなどで乾杯したあと、舌はもちろんのこと、目を楽しませる豪華なお料理が次々と出てきます。気が置けないメンバー同士、あだこうだとおしゃべりで盛り上がりました。

わがゾンタクラブの会合でいつも思うのは、会員同士の会話の楽しさです。今回ももちろん目の前の素晴らしいお料理の話から始まって、前方左隣りの会員の趣味のお話(テラリウムに凝っていらして、育て方のコツの説明、苔がとてかわいとか)、お隣のお医者さんからは、病院にいつ行けば待ち時間が短くてすむかというお話(休み明けを避けること、雨の日が良いそうです)など、無趣味かつ最近病院に縁のある私には役に立つようなそうでもないような情報を得ました。

お座敷の窓からは、すぐ下に夜の川が見え、そこをクリスマスイルミネーションを屋根につけた船がときおり行き来しています。右手奥の川べりには、布を使ったオブジェが多色のライトに照らされてはためいています。外はたいそう寒いはずですが、中は暖かく陽気な雰囲気、今年1年の労をねぎらい、イベント目白押しの来年に向けて英気を養うのにふさわしい忘年会でした。



新入会員紹介

自己紹介

三林 京子



花外楼の女将、徳光正子様のご紹介で《ZONTA Club》の方々にご縁をいただきました。品格のある方々のお集りで、世界の女性の健康と地位向上をサポートする会と伺い、日本でヌクヌクとくらししている世間知らずの私には女性が学校にも行けず、字も読めない国の実情等は全く解りませんので、思い切って入会させていただき、勉強する事に致しました。3ヶ月経ちますが、まだアメリカから入会通知が届かないので、実感はありませんし、いつまで続けられるか解りませんが、どうぞよろしくお願ひ致します。

自己紹介

中川 友里



この度は大阪Ⅱゾンタのお仲間に入れていただきありがとうございます。ゾンタには内藤・芳川先生にお誘いいただきました。

私は1959年2月大阪で生まれで大阪で育ちました。1983年近畿大学医学部を卒業、1991年に阿倍野で主人と中川医院を開業しました。数年でクリニックは軌道に乗りましたので主人に任せて一旦子育てに専念、次男が中学に入学した頃から病院勤務を増やし、現在は大阪府済生会茨木病院で健診科・リハビリテーション科部長で勤務しています。趣味は詩や物語の朗読・生け花・美味しいものを食べ歩くことですが、スポーツは全般苦手です。

長男は「血を見るのは嫌」という子で文系大学に進学し既に社会人、次男は第一希望は医学部でしたが一浪して歯学部に進学しました。私の両親・祖父母の4人が歯科医師だったこともあり、現在は目標を持って有意義な学生生活を過ごしているようです。

既に子育ては終わりママ友との付き合いも減りました。気が付くと交際範囲の殆どは女性医師で、どうしても視野が狭くなりがちです。これからはゾンタの皆様から色々ご指導賜りたく思っております。どうぞ宜しくお願いいたします

自己紹介

城本 友恵



この度、義理の叔母の紹介でゾンタクラブに入会させていただくことになりました。女性の地位向上と世界平和のために国際的な活動をされているクラブで学ばせていただく機会を得たことは、大変光栄なことと感謝の気持ちでいっぱいです。

私は高校生のころからボランティア活動に従事しておりました。長女を出産し少し手が離れたころ、児童デイサービスで障がいを抱える子供たちのお手伝いをしておりました。障がいの垣根を越えて、地域で安心して子育てができる子育て支援ができればと、一念発起し保健師の資格を取得するために大学へ編入し、大学院へ進学しました。現在は、(株)グローリーの代表を務めながら、保健センターで母子保健業務を担当しております。

趣味はとにかく身体を動かすことで、テニス、スキー、スノーボード、ウェイクボード、ゴルフ、ムエタイなどをたしなんでおりますが、筋トレだけは苦手な体育会系女子です。年を重ねるにつれ、少しは知的で高尚な趣味も身につけようと去年から香道を習い始めました。また、美味しいものを食べることも大好きで、お料理の勉強と口実を設けては、あちこちのレストランに出没し、満腹中枢を麻痺させております。

ゾンタクラブでは、第一線でご活躍されている魅力的な女性がたくさん在籍されております。私は両親から大勢の友人に恵みを与えられるような人になってほしいという願いを込められ、「友恵」と名付けられました。素敵な諸先輩方からたくさんの刺激を受けながら、微力ではございますが各種社会奉仕活動に貢献できるよう努力して参る所存です。若輩者のため、ご迷惑をお掛け致しますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



編集後記

第45号は普段より1か月早い2月に発行することになりました。2月25日の当クラブのチャリティイベントで配布するためです。いつもより少し多く印刷の予定ですので、たくさんの方々に読んでいただけたらうれしいです。
坂本 千代